

監督競技者注意事項

下野市大松山運動公園陸上競技場

1 規 則

競技は2022年度（公財）日本陸上競技連盟競技規則および本大会申し合わせ事項による。

2 練習について

- (1) 練習は競技者のみとする。
- (2) 練習会場について
 - ①隣接の多目的グラウンドを使用する。
 - ②100・200m予選・決勝およびハードル競技中のみ、バックストレートを開放する。
 - ③主競技場での練習は、7時30分～8時35分（競技開始15分前）まで可とする。
- (3) 会場内へは、備え付けの用具以外の持ち込みを禁止する（ただし、棒高跳用ポール、バトン、ストップウォッチは除く）。
- (4) 全ての練習は、競技役員及び係の指示によって行うものとするが、監督、競技者も危険防止を十分留意する。
- (5) 砲丸投の練習について
 - ①主競技場以外での練習は禁止する。（招集後のピットのみで行い、それ以外では行わない。）
 - ②投擲物を利用した練習は、招集完了前に隣接の多目的グラウンドにおいて大会主催者が準備したもので練習を可とする。また、競技開始40分前からは、ピットでの投擲練習を可とする。

3 競技場について・使用する競技用靴について

- (1) 本競技場は全天候舗装であるので、靴底から外部に出ているスパイクの長さは9mmを超えてはならない。また走高跳およびやり投の場合は、12mmを超えてはならない。なお、スパイクピンの数は、11本以内とする。
- (2) 靴底の厚さは以下のとおりとする。

800m未満のトラック種目とフィールド種目	：20mm以内
800m以上のトラック種目	：25mm以内

ただし、フィールド競技用シューズTR5.5については適用を除外する。
- (3) 規程のシューズを使用していることを前提に招集所（競技者係）にてチェックは行わないが、審判員の権限により求められた場合はシューズチェックを行う場合もある。

4 アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブスは胸と背に1枚ずつ確実につけること。女子選手のセパレートタイプのユニフォームについては、ナンバーが審判から見えるように4ヶ所で確実に留めること。ただし、跳躍競技に出場する競技者は、胸または背に1枚つけるだけでよい。
- (2) トラック種目では、腰ナンバー標識を右腰後方につけること。腰ナンバー標識は招集所にて配布するので、競技者各自が持ち出し、競技終了後は各自の責任において持ち帰り、処分すること。安全ピンは競技者各自で用意すること。
- (3) 写真判定の妨げとなるので、腰ナンバー標識が隠れないようにすること。

5 招集について

- (1) 競技者は、招集完了時刻10分前に競技者控え所（第3ゲート（200mスタート地点）外側・トイレ横）に集合し、競技者係の点呼とユニフォーム・アスリートビブス及びスパイクのピンの長さの確認を受け、待機する。
- (2) 招集は、本人が招集所において招集を受ける。ただし、同一時間に他の種目と兼ねて出場する者は、競技者係及び当該審判主任に申し出て了解を受ける。この場合は、代理人を認める。
- (3) 招集に遅れた場合は、棄権とみなし出場を許さない。（尚、事前に棄権することが明らかなき場合は招集完了時刻までに招集所へ申し出る。その際、代理人も認める。）
- (4) 四種競技出場者は最初の種目（男子110mH、女子100mH）は、招集所で点呼を受け、その他の種目については、現地にて混成競技係の点呼を受ける。もしも2種目目以降を棄権する際は、招集所に申し出る。
- (5) 招集時刻は下記のとおりである。時間は競技開始時刻を基準とする。

種 目		招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技		25分前	15分前
フィールド競技	走高跳・走幅跳	50分前	40分前
	棒高跳	70分前	60分前
	砲丸投	50分前	40分前

※四種競技の2種目目以降の招集は現地で行う。

6 入・退場について

競技者は招集完了と同時に競技場へ誘導されるので、係員の指示に従い入場し、競技終了後も指示に従い規律ある行動をとること。

7 競技方法について

- (1) スタート合図はイングリッシュコマンド（On your marks:オン・ユア・マークス, Set:セット）で行う。不正スタートについて、1回目の不正スタートで失格とする。四種競技は2回目以降の不正スタートをした者が失格となる。
- (2) トラック競技予選の走路順、フィールド競技試技順序はプログラム記載の上から下の順序にする。
- (3) 決勝の走路順は本部で抽選し、招集所に掲示する。
- (4) リレー競技に出場するチームは、リレーオーダー用紙を作成し、招集完了1時間前に招集所競技者係に提出する。（リレーオーダー用紙は、招集所に用意する。）
- (5) 800mはすべて2組タイムレース、リレーはすべて4組タイムレースとする。
- (6) 走高跳、棒高跳におけるバーの上げ方は次の通りとする。ただし、諸条件（悪天候）などにより、審判長の判断で高さを変更することもある。下記以降の高さについては、競技者と相談する。

	学 年	練習	競 技
男子走高跳	1 年	1.35	1.40～1.45～1.50～1.55～1.60～1.65～
	2 年	1.45	1.50～1.55～1.60～1.65～1.70～1.75～
女子走高跳	1 年	1.20	1.25～1.30～1.35～1.40～1.45～1.50～
	2 年	1.25	1.30～1.35～1.40～1.45～1.50～1.55～
棒 高 跳	2 年	2.20	2.30～2.40～2.50～2.60～2.70～2.80～
四種男子走高跳	共 通	1.25	1.30～1.35～1.40～1.45～1.50～1.55～
四種女子走高跳	共 通	1.10	1.15～1.20～1.25～1.30～1.35～1.40～

①最後の1人になり優勝が決まるまでは、上表の上げ幅を変えてはならない。ただし、残っている競技者が2人以上でも、全員の同意があればTR26.4.1, TR26.4.2を適応しないで、県記録を超える高さのバーを上げることができる。

②第1位を決定するためのバーの上げ下げは、走高跳2cm、棒高跳5cmとする。

